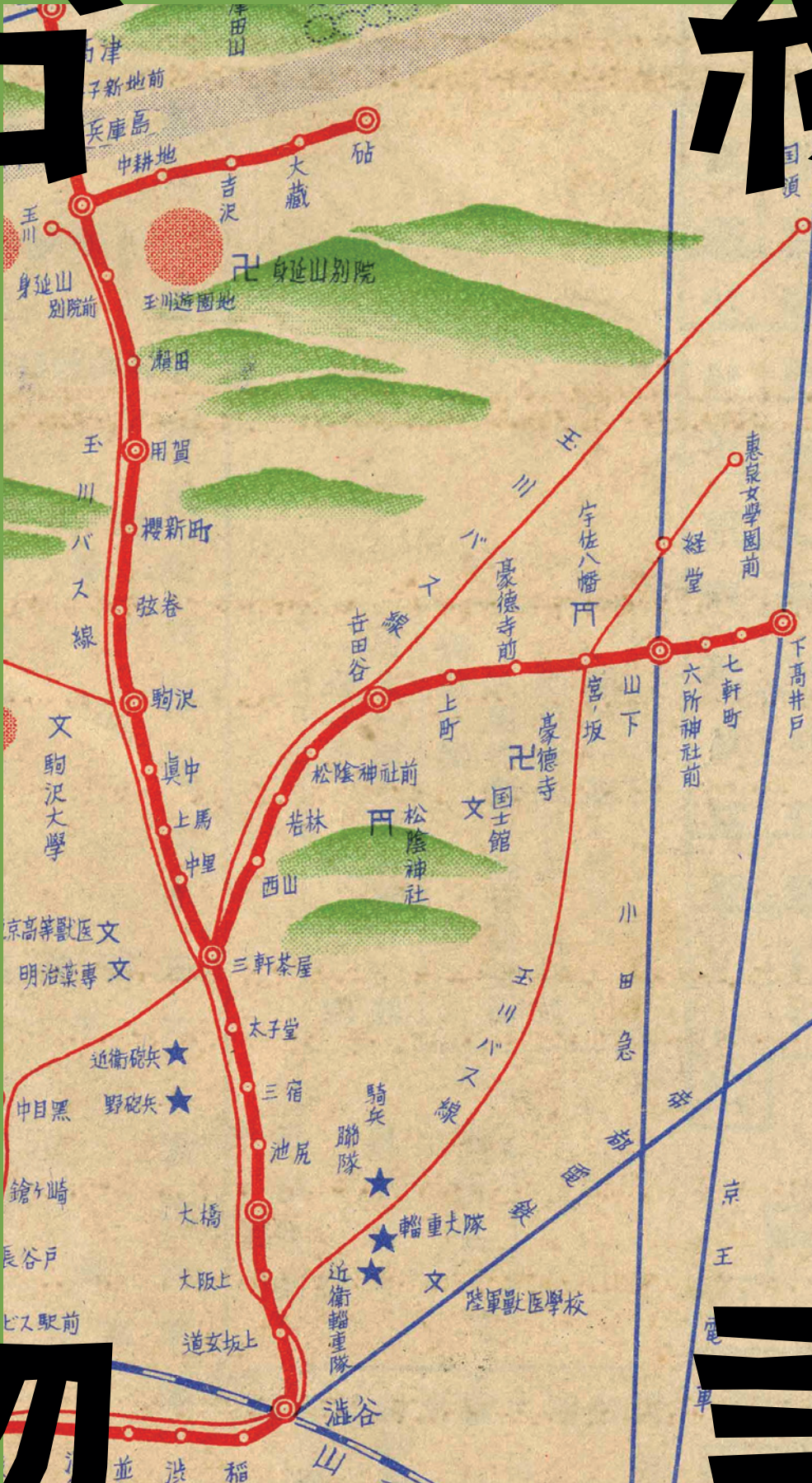


沿

美術家たちの

線

Artists Along the Railway Lines: Den-en-toshi Line and Setagaya Line
2020年12月19日 出 — 2021年3月28日 回



■開館時間 ■午前10時〜午後6時（入場は午後5時30分まで） ■休館日 ■毎週月曜日（ただし、祝休日と重なった場合は開館、翌平日休館） *1月11日（月）祝は開館、1月12日（火）は休館 年末年始（12月28日〜1月4日） ■観覧料 ■一般200円（160円）、大高生150円（120円）、65歳以上/小学生100円（80円） *障害者の方は100円（80円）ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者1名につき1名は無料。 *（）内は20名以上の団体料金。 *小・中学生は土、日、祝、休日は無料。

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
 TEL 03-3415-6011（代番）
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
 展覧券のJコード: 050-n47-8600（ハロータイム）

世田谷美術館
 SETAGAYA ART MUSEUM

物

語

田園都市線・世田谷線篇

玉川電気鉄道株式会社《沿線案内 渋谷玉川電車》(部分) 1935-38年頃 世田谷区立郷土資料館蔵

沿線

田園都市線・世田谷線篇

物語

1907年に世田谷で最初に開通し、“玉電”の愛称で親しまれた玉川電気鉄道。現在は、渋谷から二子玉川に向かう東急田園都市線と、三軒茶屋から分岐し下高井戸へと至る東急世田谷線に、その名残をとどめています。

玉電沿線では、1913年、都内初の高級分譲地である桜新町が開発されたのをはじめ、1923年の関東大震災以降、次第に宅地化が進み、多くの美術家たちもまた、広い土地にアトリエをもとめて移り住みました。本展では、この沿線にゆかりの美術家たちを取り上げ、数々のエピソードとともに作品をご紹介します。

1919年、三軒駅近くに画室「白田舎」を建てた日本画家・平福百穂と、歌人・斎藤茂吉との交流。関東大震災の後、駒澤大学の校舎および図書館の再建に携わった建築家・菅原栄蔵と、菅原が構想した駒沢芸術家村のアトリエに住んだ洋画家・向井潤吉。桜新町に千坪の農園を営んだ木工作家・林二郎と、その近隣に住んだ洋画家・緑川廣太郎や小説家・志賀直哉ら文化人の交流の輪。1930年代に写真家・桑原甲子雄がとらえた世田谷ボロ市の風景など——。美術家たちの創作と交流の足跡、沿線で織りなされた、さまざまな物語をお楽しみください。



桑原甲子雄《松陰神社前》(世田谷ボロ市)より 1936年



平福百穂《誉謝女王》制作年不詳



向井潤吉《新雪》[東京都世田谷区弦巻 蛇崩川[付近]] 1940年頃



麻生三郎《三軒茶屋》1963年



緑川廣太郎《祈る人》1966年

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用、検温、連絡カードの記入のご協力をお願いしております。混雑時は入場制限をさせていただく場合がございます。
※ 展覧会の会期等が、急遽変更や中止となる場合もございます。最新情報は、当館ホームページ等でお知らせします。

同時開催企画展

世田谷美術館コレクション選

器と絵筆 — 魯山人、ルソー、ポーシャンほか 2021年1月5日(火)～2月28日(日)

アイノとアルヴァ 二人のアールト

フィンランド — 建築・デザインの神話 2021年3月20日(土)～6月20日(日)

- 東急田園都市線「用賀」駅下車 北口から徒歩17分、もしくは美術館行バスA「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から渋谷駅行バスB「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスC「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(無料、60台)東名高速道路高架下 厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分

世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL.03-3415-6011(代表)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
展覧会のご案内:050-5541-8600(ハローダイヤル)

